

昭和43年度(1968)作品

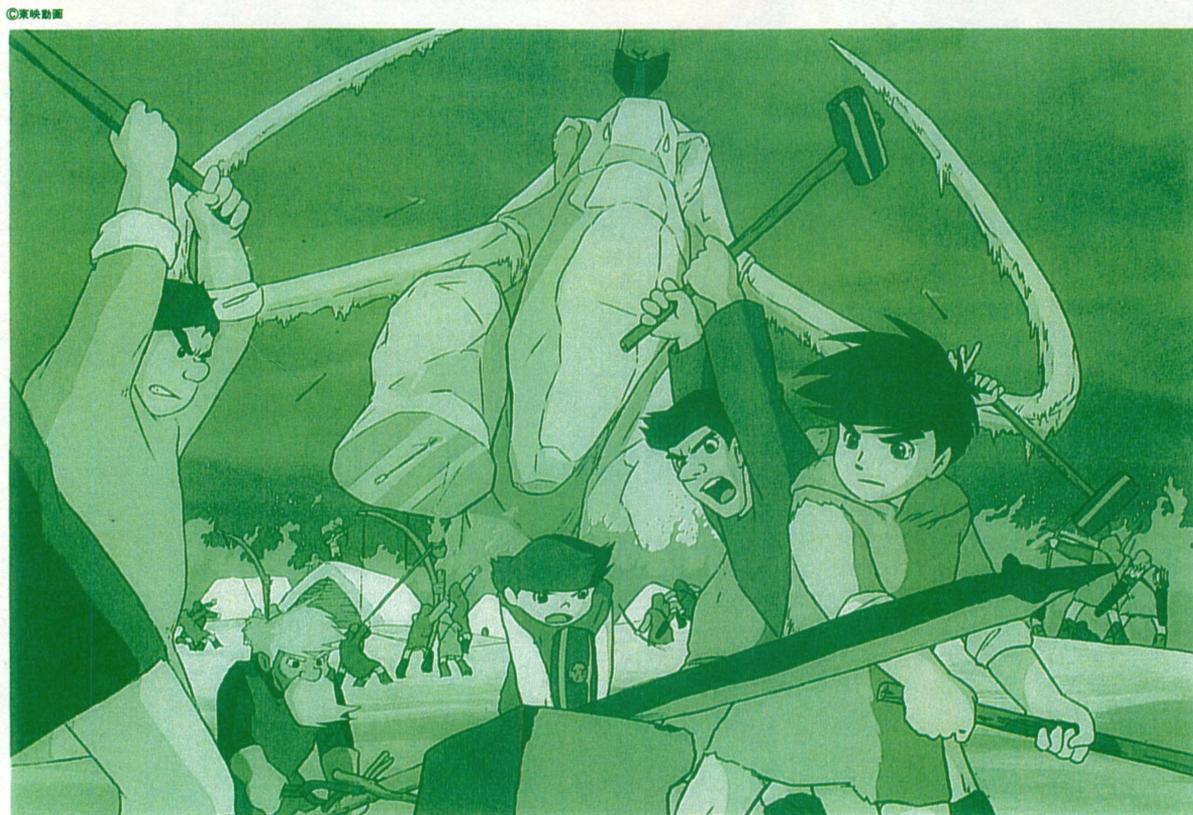
太陽の王子 ホルスの大冒険

文部省選定・厚生省中央児童福祉審議会推薦・優秀映画鑑賞会推薦

カラーワイド版

上映時間 82分

★タシゲント国際映画祭監督賞



■かいせつ■

さまざまな困難のなかで、3年の歳月をつくり手たちの持てる技術と労力の限りをこつこつとつくり上げた、日本のアニメーション映画史に、燦然と輝く傑作。公開当時、マンガ映画なのに笑えるところかひとつもないとか、詰め込みすぎて余裕がなさすぎるという評判があったり、ちつともお客が入らなかつたりで、さんさんであつたが、年を経るにつれてその真価が認められ、東映動画の代表作となった。

■あらすし■

海辺に父と一人に住むホルスは、岩男のモーグの肩にささっていた一本の剣を手に入れた。

その剣は太陽の剣と呼ばれる名剣で、その剣を鍛え上げ、使いこなせるようになった時、ホルスは太陽の王子と呼ばれるようモーグは言う。

父を失ったホルスは、一切合財を焼くと、父の遺言に従い人々のいる北の村に向かつてコロとともに出出した。再びこの地に帰ることはない。

途中ホルスは悪魔グルンワルドに弟になれとさわれるが断つて、崖から落されてしまう。ホルスは倒れたまま流水にのつて村に流れた。

ホルスは村の一員として受け入れられるかに思えたが、グルンワルドのたぐらみで村に送りこまれた一人の少女ヒルタのために、村人たちの不信を買ひ、とうとう村を追い出されてしまう。悪魔が勝つかに見えた。

しかし、ヒルタの心の底には、ひそかに人間らしさへの憧れがきざし

ていた。悪魔の攻撃が始まった。ホルスは人々を励まし、力を合わせて太陽の剣を鍛え上げ、ついに悪魔を倒した。ヒルタも仲間に入られる。

